

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

第2章 セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

第3章 ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

第4章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
商標および著作権について	7
第 1 章 機能	
1 セットアップ後	10
セットアップ後の設定	10
Windows Update を実行する	10
2 ディスプレイ関連	11
解像度と色数について	11
マルチディスプレイ機能	14
マルチディスプレイ機能を設定する	15
3 通信	18
LAN について	18
4 ドライブ関連	20
ドライブ構成	20
DMA の設定	20
ファイルシステムについて	21
5 省電力	24
スタンバイと休止状態	24
省電力の設定	27
スタンバイ／休止状態にする	28
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	29
ACPI のスタンバイモードを設定する	30
6 その他	31
デバイス一覧	31
第 2 章 セキュリティ	
1 セキュリティについて	34
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	35
コンピュータウイルス	35
通信データの暗号化	35
ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化	36
ファイアウォール	36
Windows やアプリケーションのアップデート	36
セキュリティセンター	37
3 不正使用からのセキュリティ	38
Windows のパスワード	38
管理者権限とユーザーアカウント	38

アクセス権と暗号化	38
BIOS のパスワード	39
4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	40
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する ご注意	40
ハードディスクのデータ消去サービスについて	41
第 3 章 ソフトウェア	
1 ソフトウェア一覧	44
各ソフトウェアの紹介	45
アンインストール方法	54
2 ドライバ	55
3 Windows Update について	56
「Windows Update」を実行する	56
第 4 章 トラブルシューティング	
1 トラブルに備えて	60
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	60
Windows のセットアップ後の操作	60
修正プログラムの適用について	61
データのバックアップ	61
コンピュータウイルス対策	61
ドキュメントの確認	62
2 トラブル発生時の基本操作	63
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	63
以前の状態に戻す	63
Safe モードで起動する	64
ハードウェアの競合を確認する	65
バックアップを行う	66
メッセージなどが表示されたらメモしておく	66
診断／修正プログラムを使用する	66
リカバリ／再インストール	68
3 起動・終了時のトラブル	69
4 OS・アプリケーション関連のトラブル	71
5 ハードウェア関連のトラブル	73
ハードウェア関連のトラブル一覧	73
BIOS	74
メモリ	74
内蔵 LAN	75
ハードディスク	77
CD	78
フロッピーディスク	78
ディスプレイ	79

サウンド	81
キーボード	81
マウス	82
USB	82
プリンタ	83
その他	83
6 それでも解決できないときは	84
お問い合わせ先	84
索引	85

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
          ↑ ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

また、本文中の操作手順において、操作手順の類似しているものは、あわせて記述しています。

例：「スタート」ボタン→「(すべての)プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「Main」メニューの「Boot Menu」の項目を「Enabled」に設定します。

↓

「Main」 - 「Boot Menu」 : Enabled

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
FMV-1260FA1S	本パソコン/パソコン本体		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows 注
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Microsoft® Windows® 2000 日本語版 Service Pack			
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS		
Norton AntiVirus™ 2004	AntiVirus		
Adobe® Reader® 6.0	Adobe Reader		

注：Windows XP/2000 のように併記する場合があります。

■ お問い合わせ先 / URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2005 年 1 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『取扱説明書』）。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、RADEON は ATI Technologies, Inc. の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2005

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第 1 章

機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

1	セットアップ後	10
2	ディスプレイ関連	11
3	通信	18
4	ドライブ関連	20
5	省電力	24
6	その他	31

1 セットアップ後

セットアップ終了後に必要な設定などについて説明しています。

セットアップ後の設定

Windows のセットアップ終了後、次の項目を実行してください。

■ 全機種

- 「Windows Update を実行する」 (→ P.10)

Windows Update を実行する

「Windows Update」を実行し、Windows の環境を最新の状態にすることをお勧めします。

「Windows Update」を実行することで、不具合のあるプログラムが修正されるほか、多くのコンピュータウイルスや不正アクセスからパソコンを守ることができます。実行にあたっては、システム管理者の指示に従ってください。

「Windows Update」の実行方法については、「ソフトウェア」－「Windows Update について」 (→ P.56) をご覧ください。

2 ディスプレイ関連

ディスプレイの設定について説明しています。

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブまたは「ディスプレイの設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。

なお、Windows XP の色数は中が 6 万 5 千色、最高が 1677 万色です。

Windows 2000 の色数は High Color が 6 万 5 千色、True Color が 1677 万色です。

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)		
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1280 × 768	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1920 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1920 × 1440	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)	○	

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
2048 × 1536	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)		
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)		
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)		
	最高・True Color (32 ビット)	○	
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)		
	最高・True Color (32 ビット)	○	

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少なくなります。
- ▶ 必ず他のアプリケーションや常駐しているソフトウェアをすべて終了してから、解像度、色数を変更してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。再起動しない場合、本パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- ▶ 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なりフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。表示可能な解像度以外の解像度ではお使いにならないでください。表示可能な解像度はディスプレイのマニュアルでご確認ください。なお、すべてのディスプレイについて動作保証するものではありません。
- ▶ アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

設定項目が表示されます。

- 3 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。
 - Windows XP の場合
手順 5 へ進んでください。
 - Windows 2000 の場合
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「新しいデスクトップ設定を適用します。」と表示されたら「OK」をクリックします。
- 5 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。
設定が有効になります。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、手順 3 に戻り再度解像度などを選択します。

■ 補足情報

「画面のプロパティ」ウィンドウ内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプをご覧ください。通常は初期設定値でお使いください。

マルチディスプレイ機能

本パソコンには、搭載しているグラフィックスカード 1 枚で、2 台のディスプレイを接続／表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

POINT

- ▶ 搭載しているグラフィックスカードのみでマルチディスプレイ機能を使うことができるので、本体にグラフィックスカードを増設する必要はありません。

■ 留意事項

- 本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を必ず入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、本体の電源を入れる前に、デジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。本体の電源を入れたあとにデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、本体の電源を切り、その後に電源を入れ直してください。
- マルチディスプレイ機能を使用する場合、必ず Windows のセットアップを行ってから、もう一方のディスプレイケーブル (DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続含む) を接続してください。
- マルチディスプレイ機能には、次の 2 つの機能があります。

- ・クローン機能

プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能です。各ディスプレイの設定 (解像度、色数、リフレッシュレート) は、選択可能な範囲で同一に設定してください。

なお、表示可能な解像度が異なるディスプレイ 2 台でマルチディスプレイ機能を使う場合、表示は解像度が低いディスプレイに依存します。解像度が低いディスプレイにあわせて画面を設定してください。

- ・マルチモニタ機能

デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの 2 台のディスプレイを使って表示する機能です。

OS 上では、2 台のディスプレイとして認識されます。各ディスプレイの設定 (解像度、色数、リフレッシュレート) は、選択可能な範囲でディスプレイごとに設定してください。

	クローン機能		マルチモニタ機能	
	Windows XP	Windows 2000	Windows XP	Windows 2000
FMV-1260FA1S	○	○	○	○

- お使いになる前に、ディスプレイのマニュアルなどを参照し設定してください。
- DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、添付の「マルチモニタケーブル」または、「DVI-VGA 変換アダプタ」をお使いください。
- アナログディスプレイを 2 台接続する場合は、添付の「マルチモニタケーブル」をお使いください。
- マルチディスプレイ機能を設定する場合は、設定を行う前に 2 台目のディスプレイを接続してください。2 台目のディスプレイが接続されていない場合は、マルチディスプレイ機能を設定することができません。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。

- マルチディスプレイ機能を設定すると、ディスプレイを1台のみ接続してお使いになる場合に比べて表示性能が若干低下しますのでご注意ください。
- 接続されていないディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を有効にしないでください。正常に動作しない場合があります。
- ディスプレイを取り外した場合、取り外したディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を無効にしてください。
- ピンボールなどのゲームや Windows Media Player などのマルチディスプレイ機能での動作を保証していないアプリケーションを全画面表示した場合、アプリケーションを表示している画面以外のデスクトップの表示が正常に行われず場合があります。
- 動画再生ソフトによってはプライマリディスプレイの画面以外では動画の再生を行えない場合があります。その場合は、動画再生ソフトを最新版にアップデートしてください。

■ 用意するもの

- マルチモニターケーブル
- DVI-VGA 変換アダプタ (DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合)
- ディスプレイ

マルチディスプレイ機能を設定する

POINT

- ▶ 「XXXXX」は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ 各項目の詳細は、調べたい項目の上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数(単位はHz)で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRT 等のアナログディスプレイではリフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは 85Hz 又は 75Hz、LCD 等のデジタルディスプレイでは 60Hz でご使用されることをお勧めします。

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と RADEON 9200 SE のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「画面」タブをクリックします。
- 4**  ボタンをクリックします。
- 5** 「OK」をクリックします。
「設定は適用されました。新しい設定を保存しますか?」と表示されます。
- 6** 「はい」をクリックします。
- 7** 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。

8 解像度と色数を設定し、本パソコンを再起動します。

「解像度と色数について」(→ P.11) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ 解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。「2」のディスプレイに対して設定するとクローン機能が解除されてしまいます。

● 留意事項

- ・ プライマリボタンが有効   になっているディスプレイをプライマリモニタと呼び、クローンボタンが有効   になっているディスプレイをクローンモニタと呼びます。



- ・ コマンドプロンプトをフルスクリーンで利用する場合、プライマリモニタに表示されません。
- ・ クローンモニタの動画再生画面の表示方法を全画面表示やウィンドウ表示に切り替えることができます。次の手順で設定を変更してください。
 1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
 3. 「オーバーレイ」タブをクリックします。
「オーバーレイの警告」ウィンドウが表示された場合は「OK」をクリックしてください。
 4. 「シアターモード」をクリックします。
 5. 「OK」をクリックします。
 6. 「OK」をクリックします。

□ マルチモニタ機能の場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。

- 3** 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4** 解像度と色数を設定し、本パソコンを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.11) をご覧になり、設定してください。

3 通信

LAN など、通信関連について説明しています。

POINT

- ▶ ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

LAN について

■ 対象 OS

全 OS

■ LAN を接続する

本パソコンには、LAN デバイスが内蔵されています。1000BASE-T による IEEE 802.3ab、100BASE-TX による IEEE 802.3u に準拠した高速 LAN システムへ接続することができます。また、従来の 10BASE-T による LAN システムへ接続することも可能です。

⚠ 警告



- 近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源を切り、電源プラグや LAN ケーブルを取り外してください。

そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
故障の原因となることがあります。

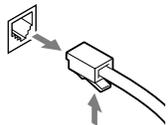
- 1 パソコン本体の電源を切ります (→ 『取扱説明書』)。
- 2 パソコン本体の LAN コネクタ (→ 『ハードウェアガイド』の「はじめに」→ 「2 各部の名称と働き」) とネットワークを、LAN ケーブルで接続します。

👉 重要

- ▶ ネットワークを使用中に省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなったり、アプリケーションの不具合が発生したりする場合があります。
その場合は、省電力機能を解除してください (→ P.24)。

POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



コネクタの向きは機種により異なります。

4 ドライブ関連

ドライブ関連について説明しています。

ドライブ構成

■ Windows XP の場合

ドライブ	容量	備考
C	全容量の約 50%	NTFS
D	全容量の約 50%	NTFS
E	CD-ROM ドライブ	

■ Windows 2000 の場合

ドライブ	容量	備考
C	全容量の約 50%	FAT32
D	全容量の約 50%	NTFS
E	CD-ROM ドライブ	

POINT

- ▶ Windows 2000 でファイルシステムを FAT から NTFS に変換する方法については、「ファイルシステムについて」(→ P.21) をご覧ください。

DMA の設定

■ DMA 設定対応表

● : ご購入時 DMA 設定 ○ : DMA 設定可 - : 増設不可

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	0	1	0	1
FMV-1260FA1S	●	-	●	-

■ DMA の設定方法

1 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

●Windows 2000 の場合

「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 2** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3** 「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。
- 4** 「セカンダリ IDE チャンネル」または「プライマリ IDE チャンネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 5** 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャンネルのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
- 6** 「DMA の設定」の表を参照して設定を変更します。
- 7** 「OK」をクリックします。

ファイルシステムについて

■ ファイルシステムの概要

出荷時やリカバリ後は、ハードディスク上のシステムドライブは次のファイルシステムでフォーマットされています。

Windows XP : NTFS

Windows 2000 : FAT32

Windows 2000 の場合は、再インストール時に、ファイルシステムの選択 (FAT32 または NTFS) を行うことができます。

再インストールについては、添付の『取扱説明書』をご覧ください。

重要

- ▶ Windows 2000 DSP モデルで、127GB を超えるハードディスクに Windows 2000 を再インストールする場合、次の条件を必ず守ってください。これらの条件を守らない場合、ハードディスクのデータが破壊されることがあります。
 - ・先頭の区画 (C ドライブ) に OS を再インストールしてください。
 - ・約 127GB (131062MB^注) を超える区画には、OS を再インストールしないでください。
注：再インストール時の画面で表示される容量です。換算方法の違いにより異なる値になります。
 - ・OS の再インストールは、『取扱説明書』の「再インストール」の手順どおりに行ってください。

ハードディスクが破壊される場合を考慮して、再インストール前に必ず、すべてのドライブの必要なデータをバックアップしてください。

なお、この問題は Windows 2000 の仕様です。詳細は「マイクロソフト サポート技術情報」の「Windows 2000 における ATAPI ディスクドライブの 48 ビット LBA のサポート」(<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;305098>) をご覧ください。

POINT

- ▶ Windows 2000 では、システムドライブ以外の領域を FAT32 で作成できます。ただし、再インストール時や「ディスクの管理」からは、FAT32 で 32GB 以上の領域を作成できません。
- ▶ FAT32 をサポートしていない OS (MS-DOS など) からは FAT32 でフォーマットしたハードディスクを認識できません。このため、MS-DOS で作成された起動フロッピーからインストールを行うアプリケーションの場合、インストールに失敗するなどの問題が発生することがあります。
- ▶ NTFS をサポートしていない OS からは、NTFS でフォーマットしたハードディスクを認識できません。

□ FAT32 と NTFS

FAT32 から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。

POINT

- ▶ NTFS に変換した場合、すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。
- ▶ フォーマットの形式やドライブの容量を変更した場合、変更したドライブの中身はすべて消えてしまいます。必要に応じてバックアップしてから、実行してください。

■ ファイルシステムの変換方法

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

□ 変換方法

ファイルシステムを FAT32 から NTFS に変換する方法を説明します。
一度ファイルシステムを NTFS に変換すると、FAT32 に戻すことはできません。
操作の前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。

2 次のように入力します。

```
convert n: /fs:ntfs /v
```

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)

3 【Enter】キーを押します。

● ブートパーティションを変換する場合

「次のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」と表示されるので【Y】キーを押して【Enter】キーを押した後、Windows を再起動します。
Windows の再起動後にドライブが変換され、再度本パソコンが再起動します。

● 拡張パーティションを変換する場合

ドライブが変換されます。

 **POINT**

- ▶ ドライブにボリュームラベルが設定されている場合は、ボリュームラベルの入力を求められません。ボリュームラベルを入力して【Enter】キーを押してください。

5 省電力

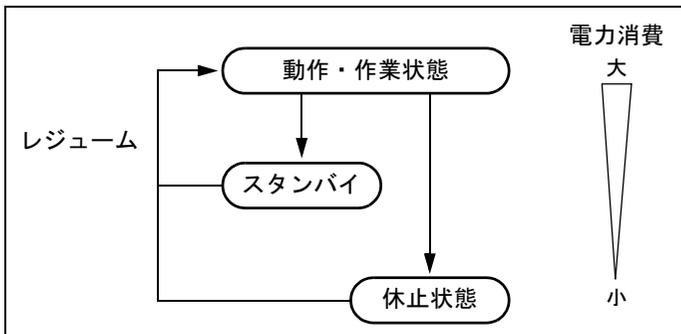
省電力について説明しています。

ご購入時は ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに設定されています。

ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法 (→ P.30) を説明します。

スタンバイと休止状態

「スタンバイ」または「休止状態」を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



- スタンバイ

実行中のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプがオレンジ色に点灯します (→ 『ハードウェアガイド』の「はじめに」－「2 各部の名称と働き」)。「休止状態」よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

- 休止状態

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、「スタンバイ」よりも中断/レジュームにかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで設定する必要があります。

■ 留意事項

□ 全 OS 共通の留意事項

- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンなどで本パソコンをスタンバイ状態に移行させても、まれにすぐにレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイ状態に移行させてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- スタンバイ時／休止状態移行時／レジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない／スタンバイまたは休止状態からレジュームしない／レジューム後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
 - ・ OS の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブのアクセスランプまたは状態表示 LCD が点灯中）
 - ・ ネットワークの通信中
 - ・ オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ ビデオ CD などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ マウスの操作中
 - ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「メニュー詳細」をご覧ください。
- 高度な省電力モード（ACPI S3）をサポートすることにより、ご購入時の状態では、スタンバイ時の消費電力を数ワットにすることを実現しています。

事前に、接続する周辺機器が ACPI に対応しているか、また、ACPI S3 / ACPI S1 モード対応かを周辺機器のメーカーに確認してください。従来の周辺機器（プリンタ、USB 機器等）、または ACPI モードに対応していない周辺機器を接続すると、次の状態になる場合があります。

 - ・ 周辺機器が使用できない
 - ・ スタンバイ状態からレジュームできない
 - ・ 本体がスタンバイ状態から復帰した後に、正常に動作しない

この場合は、「ACPI のスタンバイモードを設定する」（→ P.30）をご覧ください。スタンバイモードを高度（ACPI S3）から標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。

また、内蔵ドライブユニットについても、ACPI S3 モードに対応していない場合があります。同様に、スタンバイモードを標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。

なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できる周辺機器もあります。詳細は周辺機器のメーカーに確認してください。

- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング (割り込みの共有)」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能 (Wakeup on LAN 機能) を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
 1. 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します (→ P.27)。
 2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。
- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイ状態移行時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、パソコン本体がレジュームすることがあります。この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- プリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- スタンバイまたは休止状態へ移行させるときは、手動 (電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.28)、などの操作) ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまうことを回避できます。
 - ・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでの時間 (例えば「30 分後」) を設定します。
- スタンバイ状態に移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイ状態に移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイ状態に移行できない状態を示します。スタンバイ状態に移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合 (スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど) が発生することがあります。
 - ・ TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、手動 (電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.28)、などの操作) によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合

- ・ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→P.28）、などの操作）によりスタンバイ状態に移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。

[ファイル名] ～～

このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」

- 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- OpenGLを使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイおよびシステム休止状態への移行はできません。

省電力の設定

■「電源オプションのプロパティ」の表示

本パソコンの電源を管理することができます。

1 次の操作を行います。

●Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。

●Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「電源オプション」をクリックまたはダブルクリックします。

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

■設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

□「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイ状態に移行するまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。

「休止状態」タブで休止状態を選択した場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細設定」または「詳細」タブ

電源ボタンを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています）。

次のように設定できます。

●「コンピュータの電源ボタンを押したとき」

：電源ボタンを押したときの状態を設定できます。

- Windows XP : 「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」
Windows 2000 : 「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」
: スタンバイ状態からレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

□「休止状態」タブ

本パソコンの動作を中断するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」または「休止状態をサポートする」をチェックすると、「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイ／休止状態にする

■ 終了ウィンドウを使う

終了ウィンドウを使用してスタンバイ／休止状態にする場合は、次のように操作してください。

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」での設定が必要な場合があります (→ P.27)。

1 「スタート」ボタンから次のメニューをクリックします。

Windows XP : 「終了オプション」

Windows 2000 : 「シャットダウン」

2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。

POINT

- ▶ Windows XP の休止状態について
Windows XP の終了ウィンドウには、「休止状態」は表示されません。【Shift】キーを押すと、「スタンバイ」の項目が「休止状態」に変わります。
休止状態にする場合は、【Shift】キーを押しながら、「休止状態」を選択します。

3 Windows 2000 の場合は「OK」をクリックします。

しばらくするとスタンバイ／休止状態に移行します。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

■ スタンバイおよび休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイおよび休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外で標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイ状態からレジュームさせると、OS の仕様により画面が表示されない場合があります。その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、本パソコンは再度スタンバイ状態に移行します。

レジューム要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)
電源ボタンを押す ^{注1}	○	○	○
PS/2 キーボードのキーを押す、 PS/2 マウスを動かす	○ ^{注7}	×	×
ワイヤレスキーボードのキーを押す、 ワイヤレスマウスを動かす	○ ^{注7}	×	×
USB キーボードのキーを押す、 USB マウスを動かす ^{注2}	○	○	○
タイマーでレジューム時刻指定する ^{注3}	○	○	○
LAN 着信 ^{注4}	○	○	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号) ^{注5}	○	×	×
PCI 拡張カード (PME# 信号) 経由の着信 ^{注6}	○	○	○

注1: 「電源オプションのプロパティ」 - 「詳細設定」タブまたは「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」または「電源オフ」に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスタンバイ状態からレジュームします。

注2: 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

注3: 「タスク」を使用した場合

注4: 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

注5: 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

注6: PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

注7: 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティで「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

ACPI のスタンバイモードを設定する

■ 概要

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 高度 (ACPI S3) …メモリ以外の装置の動作を停止します。標準 (ACPI S1) と比較し、省電力に優れる一方でレジュームには時間がかかります。
- 標準 (ACPI S1) …CPU の動作を停止します。

ご購入時には、高度 (ACPI S3) に設定されています。スタンバイモードを変更する方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ 増設する周辺機器は高度 (ACPI S3) に対応している必要があります。対応していない周辺機器を接続する場合は、標準 (ACPI S1) に切り替えてお使いください。

■ スタンバイモードを高度から標準に変更する

- 1 BIOS セットアップで、スタンバイモードを標準 (ACPI S1) に設定します (→ 「BIOS」 - 「BIOS セットアップの操作のしかた」)。
「Advanced」 - 「Power Management Setup」 - 「ACPI Suspend Type」: S1(POS)

POINT

- ▶ 上記の操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「電源オプションのプロパティ」で、再設定してください (→ P.27)。

■ スタンバイモードを標準から高度に変更する

標準から高度に変更するには、BIOS 設定を元に戻してください。

- 1 BIOS セットアップで、次の設定を変更します (→ 「BIOS」 - 「BIOS セットアップの操作のしかた」)。
「Advanced」 - 「Power Management Setup」 - 「ACPI Suspend Type」: S3(STR)
- 2 変更後、リカバリを実行します (→ 『取扱説明書』)。

6 その他

ご購入時のデバイス一覧です。

デバイス一覧

POINT

- ▶ 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。その際、デバイス名称などが本書の記述と異なる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

1

機能

■ Windows XP の場合

デバイス	名称	備考
IDE ATA/ATAPI コントローラ	Intel(R) 82801EB Ultra ATA Storage Controllers セカンダリ IDE チャンネル プライマリ IDE チャンネル	
USB (Universal SerialBus) コントローラ	Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24D2 Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24D4 Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24D7 Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24DE Intel(R) 82801EB USB 2 Enhanced Host Controller - 24DD USB ルートハブ USB ルートハブ USB ルートハブ USB ルートハブ USB ルートハブ	
サウンド、ビデオおよび ゲームコントローラ	Realteck AC'97 Audio オーディオ CODEC ビデオ CODEC メディア コントロール デバイス レガシ オーディオ ドライバ レガシ ビデオ キャプチャ デバイス	
ディスクドライブ	HDD モデル FUJITSU MHT2040AS ミラーディスクモデル AXRB-N402A-FFC	
ディスプレイアダプタ	RADEON 9200 SE RADEON 9200 SE Secondary	ご購入時の解像度/色数 解像度/色数：800 × 600 / 中 (16 ビット) リフレッシュレート：60Hz
ネットワークアダプタ	1394 ネットアダプタ Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection	

■ Windows 2000 の場合

デバイス	名称	備考
IDE ATA/ATAPI コントローラ	Intel(R) 82801EB Ultra ATA Storage Controllers セカンダリ IDE チャンネル プライマリ IDE チャンネル	
USB (Universal SerialBus) コントローラ	Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24D2 Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24D4 Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24D7 Intel(R) 82801EB USB Universal Host Controller - 24DE USB 2.0 ルートハブ USB ルートハブ USB ルートハブ USB ルートハブ USB ルートハブ 標準エンハンス PCI to USB ホスト コントローラ	
サウンド、ビデオおよびゲーム コントローラ	Realteck AC'97 Audio オーディオ CODEC ビデオ CODEC メディア コントロール デバイス レガシ オーディオ ドライバ レガシ ビデオ キャプチャ デバイス	
ディスクドライブ	HDD モデル FUJITSU MHT2040AS ミラーディスクモデル AXRB-N402A-FFC	
ディスプレイアダプタ	RADEON 9200 SE RADEON 9200 SE Secondary	ご購入時の解像度/色数 解像度/色数：800 × 600 / 中 (16 ビット) リフレッシュレート：60Hz
ネットワークアダプタ	Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection	

第2章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	34
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	35
3 不正使用からのセキュリティ	38
4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	40

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、簡単に説明しています。

重要

- ▶ セキュリティ機能は完全な本人認識照合を保証するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティは、本パソコンを使用している方が責任をもって行ってください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

■ コンピュータウイルス

パソコンにトラブルをひき起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を受けます。

■ 情報の漏えい

ネットワークなどをおしてパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり、破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- ▶ 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

■ 不正使用

利用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■ 盗難

不正にパソコンが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

パソコンのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」－「トラブルに備えて」(→ P.60)、および「ソフトウェア」－「Windows Update について」(→ P.56)をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどのネットワークを利用して、情報を伝達することが多くなりました。そのため、コンピュータウイルスへの感染や、パソコン内の情報が漏えいする危険性も高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することによって、無意識のうちに他のパソコンにウイルスを広めてしまうこともあります。

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「AntiVirus」が添付されています。AntiVirus は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染をチェックすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.61) をご覧ください。

通信データの暗号化

重要なデータをネットワーク経由でやり取りしている場合、ネットワーク上のデータから情報の漏えいを招くことがあります。そのため、データを暗号化して送信することが増えてきています。

Windows XP Professional や Windows 2000 には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。ここでは暗号化機能の1つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」を紹介します。

IPSec は、TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合、アプリケーションに依存することなくデータを暗号化することができます。

また、セキュリティ対応 LAN カードを使用すると、通信データの暗号化はカード側で処理されるため、CPU の負担が軽減されます。そのため、他の作業への影響を気にすることなく、暗号化通信を行うことができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化

■ 対象機種 / OS

ワイヤレス LAN 搭載モデル / 全 OS

ワイヤレス LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他のワイヤレス LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

カスタムメイドでワイヤレス LAN カードを選択した場合、本パソコンには、ワイヤレス LAN のデータを暗号化するための機能を搭載しています。

暗号化およびセキュリティについては、『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

なお、ワイヤレス LAN (無線 LAN) のアクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、アクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

ファイアウォール

パソコンを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんされることがあります。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作って、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP では、Windows ファイアウォールが標準で搭載されています。

Windows ファイアウォールについては、Windows のヘルプをご覧ください。

Windows やアプリケーションのアップデート

お使いの Windows やアプリケーションに脆弱性 (セキュリティホール) と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのパソコンに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやアプリケーションソフトを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのパソコンに適用してください。

Windows では「Windows Update」でネットワークから最新の修正プログラムを入手できます。「Windows Update」の実行方法については、「ソフトウェア」－「Windows Update について」(→ P.56) をご覧ください。

Office 製品については「Office のアップデート」で最新の修正プログラムを入手できます。「Office のアップデート」は、「Windows Update」の画面から「Office のアップデート」を選択して実行できます。なお、実行中に、Office の CD-ROM が必要になることがあります。

セキュリティセンター

「セキュリティセンター」を使うと、Windows のセキュリティの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

■ セキュリティセンターの機能

□ セキュリティの状態を監視して危険を知らせる

セキュリティセンターは、セキュリティ対策上で重要な次の3つのポイントをいつもチェックしています。

- パソコンがファイアウォールで守られている
- 「Windows Update」で「重要な更新」が自動的に適用されるように設定されている
- 最新のウイルス対策ソフトを実行している

例えば、ウイルス対策ソフトを導入していなかったり、ウイルス定義ファイルが古いままで最新のコンピュータウイルスに対応できない状態だったりした場合など何か問題があるときに、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新のセキュリティ対策を取るように心がけてください。

□ セキュリティの設定／確認を手軽に行う

セキュリティセンターでは、次の設定を行うことができます。

- インターネットオプション
「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。
- 「Windows Update」の自動更新
インターネット利用中に「Windows Update」の「重要な更新」があるかどうかを定期的に確認し、お使いのパソコンに自動的にインストールします。
- Windows ファイアウォール
ネットワーク経由で悪意のある第三者や不正なプログラムが侵入するのを防ぎます。

3 不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。

ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、パソコンの安全性も高まります。

重要

- ▶ パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、安全な場所に保管してください。また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更するなど、他人に知られないように気を付けてください。

Windows のパスワード

OS の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows XP や Windows 2000 では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows XP や Windows 2000 では、ファイルシステムとして「NTFS」を使用すると次のようなことができます。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

なお、ご購入時のファイルシステムの設定については、「機能」－「ドライブ関連」(→ P.20)をご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコン起動時や BIOS セットアップ起動時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限が付きま

す。また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておく

と、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。詳しくは、『ハードウェアガイド』の「BIOS」をご覧ください。

4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを読み出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→P.44）をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

■ 法人・企業のお客様へ

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	弊社標準と定めている 2 回書き（ランダムデータ + 0 データ）から海外規格（NSA, DoD…）に対応
ハード消去	消磁装置による磁気破壊（媒体表面水平磁力 10500 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し消去済フォログラフシールを対象ディスクに貼付け、納品物とします。

詳しくは、ストレージ統合サービス（<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>）をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

Memo

第3章

ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

3

1	ソフトウェア一覧	44
2	ドライバ	55
3	Windows Update について	56

1 ソフトウェア一覧

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。
- ▶ 添付されているソフトウェアは「ドライバズディスク」、「リカバリディスク」などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。

◎：プレインストール（添付あり） ○：プレインストール（添付なし） △：添付のみ -：添付なし

名称	Windows XP	Windows 2000
Microsoft Windows XP Professional (SP2) (→ P.45)	◎	—
Microsoft Windows 2000 Professional (SP4) (→ P.45)	—	◎
Internet Explorer 6.0 SP1 (→ P.46)	—	○
Internet Explorer 6.0 SP2 (→ P.46)	○	—
Microsoft IME スタンダード 2002 (→ P.46)	○	—
Microsoft IME2000 (→ P.46)	—	○
DirectX9.0b (→ P.46)	—	○
DirectX9.0c (→ P.47)	○	—
Windows 環境調査ツール (FM Advisor) (→ P.47)	◎	◎
Viewpoint Media Player (→ P.47)	◎	◎
Adobe Reader (→ P.48)	◎	◎
3 モードフロッピーディスクドライバ (→ P.48)	◎	◎
FMV 診断 (→ P.49)	◎	◎
FM キーガード (→ P.49)	△	—
AntiVirus (→ P.50)	△	△
FM-Menu (→ P.50)	△	△
FM 拡大ツール (→ P.51)	△	—
Easy Backup (→ P.51)	△	△
ハードディスクデータ消去 (→ P.52)	△	△
シャットダウンユーティリティ (→ P.53)	△	△
ミラーディスク監視モニタ (→ P.54)	△	△

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ Windows XP では Windows 起動中に「ドライバズディスク」、「リカバリディスク」などをセットすると、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されます。「キャンセル」をクリックしてください。

■ Microsoft Windows XP Professional (SP2)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

□ 対象 OS

Windows XP Professional

□ SP2 のインストール

SP2 には、Windows XP に対する新しい修正が含まれています。
インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
c:¥sp¥xpsp2.exe
「Windows XP Service Pack2 セットアップ ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「次へ」をクリックします。
- 4** 「追加使用許諾契約書」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows XP のバージョン情報は、次の操作で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Microsoft Windows 2000 Professional (SP4)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプをご覧ください。
Windows 2000 DSPモデルをお使いの場合は、添付されている『Microsoft Windows 2000 Professionalクイックスタートガイド』でもご覧になれます。

□ 対象 OS

Windows 2000

POINT

- ▶ Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Internet Explorer 6.0 SP1

概要

WWW (World Wide Web) ブラウザです。

対象 OS

Windows 2000

■ Internet Explorer 6.0 SP2

概要

WWW (World Wide Web) ブラウザです。

対象 OS

Windows XP

■ Microsoft IME スタンダード 2002

概要

日本語入力変換ユーティリティです。

対象 OS

Windows XP

■ Microsoft IME2000

概要

日本語入力変換ユーティリティです。

対象 OS

Windows 2000

■ DirectX9.0b

概要

マルチメディアの機能を拡張します。DirectX9.0bに対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。

対象 OS

Windows 2000

■ DirectX9.0c

□ 概要

マルチメディアの機能を拡張します。DirectX9.0cに対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。

□ 対象 OS

Windows XP

■ Windows 環境調査ツール (FM Advisor)

□ 概要

本パソコンの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。Windows 2000 の場合は、次のようにインストールしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:%app%advisor%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Viewpoint Media Player

□ 概要

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET (<http://www.fmworld.net/>) に用意されている、Web 3D カタログを表示させることができます。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥app¥vpoint¥vmpfullinstall_3_0_8_201.exe

この後は、メッセージに従って操作します。
インストール完了後、本パソコンを再起動してください。

■ Adobe Reader

□ 概要

PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

1 「ドライバズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥app¥adobe¥adberdr60_jpn_full.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 3モードフロッピーディスクドライバ

□ 概要

次の DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。

1.44MB、1.23MB、1.2MB、720KB、640KB のフロッピーディスクに対応しています。

□ 対象 OS

全 OS

POINT

- ▶ インストール中に、「インストールするドライバを選択してください」と表示された場合は、「Fujitsu 3-mode floppy driver (Type 00)」を選択してください。

■ FMV 診断

□ 概要

ハードウェアの故障箇所を診断します。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: %app%shindan%fmv1410%disk1%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

POINT

- ▶ 「スタート」メニューに「FMV 診断」が登録されない場合は、「C:%Fjuty%Fmvdia%Fmvdia.exe」を直接起動するか、ショートカットを作成してください。

■ FM キーガード

□ 概要

特定のキー入力を抑止する機能と、プログラムメニューに表示するメニューの抑止機能を追加するアプリケーションです。

□ 対象 OS

Windows XP

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: %app%fmkguard%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ AntiVirus

□ 概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します (→「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.61))。

ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になります。詳細については「トラブルシューティング」－「お問い合わせ先」(→ P.84)をご覧ください。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥app¥nav¥navsetup.exe

インストールが始まります。メッセージに従って操作してください。

🔍 POINT

- ▶ Windows 2000 では「サービスアカウント情報」ウィンドウでは、管理者権限を持った「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

■ FM-Menu

□ 概要

ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

- Windows XP の場合

[CD-ROMドライブ]:¥app¥fmmenu¥xp¥setup.exe

- Windows 2000 の場合

[CD-ROMドライブ]:¥app¥fmmenu¥2k¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ FM 拡大ツール

□ 概要

画面に表示される文字やアイコン、マウスポインタなどの大きさを拡大します。

□ 対象 OS

Windows XP

□ インストール方法

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイルを指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥app¥elook¥setup.exe

このあとはメッセージに従って操作します。

■ Easy Backup

□ 概要

お客様が作成したファイルなどを、簡単な操作でまとめてバックアップできるアプリケーションです。

□ 対象 OS

全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥app¥easybup¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

使用方法については、ヘルプまたはソフトウェア説明書をご覧ください。

■ ハードディスクデータ消去

□ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは『ハードウェアガイド』の「セキュリティ」－「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」をご覧ください。

□ 対象機種／OS

全機種／全OS

□ 留意事項

- 本ツールでは、本パソコンに内蔵されている基本ハードディスクのみを対象としています。このため、増設したハードディスクのデータを消去することはできません。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- 実行中に電源を切らないでください。ハードディスクが壊れる可能性があります。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。

□ データ消去方法（リカバリディスクがある場合）

次のものを用意してください。

- リカバリディスク1

1 「リカバリディスク1」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。

メニューが表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴやWindowsの起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。その場合は、本パソコンの再起動後に【F12】キーを数回押してください。

4 CD-ROMドライブを選択して【Enter】キーを押します。

「リカバリメニュー」画面が表示されます。

5 「ハードディスクデータ消去」を選択し、【Enter】キーを押します。

ハードディスクデータ消去に関する注意事項が表示されます。

この後は、メッセージに従って、操作を続けてください。

「データ消去が完了しました。」と表示されたら、「リカバリディスク1」を取り出し、本パソコンの電源ボタンを4秒以上押して電源を切ります。

□ データ消去方法（リカバリディスクがない場合）

次のものを用意してください。

- ハードディスクデータ消去フロッピー

POINT

- ▶ ハードディスクデータ消去フロッピーは、次の手順で作成することができます。
 1. MS-DOS 起動フロッピーを、次の手順に従って作成します。
 1. 添付の「Windows 2000 ProfessionalCD-ROM」とフォーマット済みのフロッピーディスクをセットします。
 2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
 3. 「名前」に「[CD-ROM ドライブ]: ¥valueadd¥3rdparty¥ca_antiv¥makedisk.bat」と入力し、「OK」をクリックします。

この後は、メッセージに従って操作します。
 2. 「ドライバーズディスク」と MS-DOS 起動フロッピーをセットします。
 3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
 4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥other¥hdclear
「hdclear」フォルダが開きます。
 5. 「hdclear」フォルダ内の「hdclear.exe」を MS-DOS 起動フロッピーにコピーします。
 6. 「ドライバーズディスク」と MS-DOS 起動フロッピーを取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

以上で、ハードディスクデータ消去フロッピーの作成が完了しました。
作成したフロッピーディスクは、書き込み禁止の状態にしてお使いください。

- 1** ハードディスクデータ消去フロッピーをセットして、本パソコンの電源を入れます。

「InoculateIT Antivirus AVBoot バージョン 1.1」が表示されます。

POINT

- ▶ キーボードの選択画面が表示された場合は、【半角/全角】キーを押します。

- 2** 【3】キーを押した後、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
hdclear.exe
```

注意事項が表示されます。

この後は、メッセージに従って操作してください。

「データ消去が完了しました。」と表示されたら、ハードディスクデータ消去フロッピーを取り出し、本パソコンの電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切ります。

■ シャットダウンユーティリティ

□ 概要

操作方法など詳細については、「ハードウェアガイド」をご覧ください。

□ 対象 OS

全 OS

■ ミラーディスク監視モニタ

□ 概要

操作方法など詳細については、「ハードウェアガイド」をご覧ください。

□ 対象 OS

全 OS

アンインストール方法

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のアプリケーションで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または **Readme.txt** などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムの追加と削除」機能を使用する（Windows XP の場合）
「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、アプリケーションを削除できます。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する（Windows 2000 の場合）
「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または **Readme.txt** などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

重要

- ▶ 添付の「ドライバズディスク」をセットすると「ドライバズディスク検索」ツールが起動します。「ドライバズディスク検索」ツールでお使いの機種名、OS を選択すると、使用できるドライバの一覧が表示されます。
誤ったソフトウェアをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリ、または OS の再インストールが必要となることがありますので、必ず機種名を選択し、正しいソフトウェアを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。

リカバリ後、ドライバを再インストールする必要はありません。なんらかの理由でドライバを削除または破損した場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。

Windows 2000 の場合、OS の再インストールを行っても、ドライバはインストールされません。OS の再インストール後、ドライバをインストールする場合は、添付の『取扱説明書』の手順に従って操作してください。

個々のドライバをインストールする手順は、各ドライバのフォルダ内にある「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。ドライバのフォルダは「ドライバズディスク検索」ツールから検索することができます。

□ Windows XP の留意事項

- LAN ドライバのインストール中、複数のドライバ名称が表示される場合があります。その場合、何も変更せずに「OK」をクリックしてください。

3 Windows Update について

「Windows Update」は、Windows を常に最新の状態に整えるサポート機能です。「Windows Update」を実行すると、Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新、修正できます。また、最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

POINT

- ▶ Windows Update はシステム管理者の指示に従って行ってください。システム管理者は、以下の点にご注意ください。
 - ・「重要な更新」については、適用されることをお勧めします。
 - ・「ドライバの更新」は適用しないでください。ただしお客さまが追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、Windows Update を自動的に行うように設定をすることができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。出荷時は「コンピュータを常に最新の状態に保つ」が ON になっています。必要に応じて設定を変更してください。
- ▶ 「Windows Update」は、Microsoft Corporation が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。

「Windows Update」を実行する

POINT

- ▶ 「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから、次の操作を行ってください。
- ▶ インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。Windows XP の場合、ご購入時の設定は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。「Windows ファイアウォール」は、有効にして使用することをお勧めします。

■ Windows XP の場合

- 1** 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。
「Windows Update」の画面が表示されます。
- 2** 「カスタムインストール」をクリックします。
パソコンの状態を診断し、更新情報を取得します。
- 3** 「更新プログラムのインストール」をクリックします。
更新情報のリストが表示されます。

POINT

- ▶ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

4 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。

通常は、「重要な更新」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

5 「インストール」をクリックします。

修正プログラムがインストールされます。

更新が完了します。

■ Windows 2000 の場合**1** 「スタート」ボタン→「Windows Update」をクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

2 「更新をスキャンする」をクリックします。

パソコンの状態を診断し、更新情報を取得します。

3 「更新の確認とインストール」をクリックします。

更新情報のリストが表示されます。

POINT

- ▶ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

4 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目にある「削除」をクリックします。

通常は、「重要な更新」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

5 「今すぐインストールする」をクリックします。

修正プログラムがインストールされます。

更新が完了します。

POINT

ほかの修正プログラムとは別にインストールが必要な修正プログラムがあると表示されたら、画面に従って進みます。インストール終了後は再度手順1から「Windows Update」を実行します。

修正プログラムの使用許諾契約が表示されたら、内容を確認し、「同意します」をクリックします。

Windows の再起動を要求する画面が表示されたら、「OK」をクリックして再起動します。

Memo

第4章

トラブルシューティング

4

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	60
2	トラブル発生時の基本操作	63
3	起動・終了時のトラブル	69
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	71
5	ハードウェア関連のトラブル	73
6	それでも解決できないときは	84

1 トラブルに備えて

ここでは、トラブルを未然に防ぐために注意すべき点や、もしものときに備えて事前に準備すべき点について、説明します。

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本パソコンの故障ではありません。テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

■ 本パソコンの注意事項

- 本体カバーを外した状態でお使いにならないでください。
- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートの本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、リカバリ、または再インストール（→『取扱説明書』）に備えてディスク作成やバックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

- 『取扱説明書』－「Windows Update について」

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前には **Readme.txt** などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社の富士通パソコン情報サイト **FMWORLD.NET** のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

Windows については、「Windows Update」で最新の修正プログラムを入手できます（『取扱説明書』－「Windows Update について」）。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われる場合があります。必要なデータはフロッピーディスクなどの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

コンピュータウイルス対策

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ウイルスの感染を防ぐために、「AntiVirus」（→ P.61）を使用したり、WindowsUpdate を行うなどの対策を取ってください（『取扱説明書』－「Windows Update について」）。

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

■ AntiVirus

ウイルスを発見するためのソフトとして、**AntiVirus** が添付されています。電子メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、ウイルスチェックを実行したうえでお使いください。また、パソコンのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。

AntiVirus はご購入時にはインストールされていません。必要に応じて、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→ P.44）をご覧ください。また、**AntiVirus** の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

□ 留意事項

- **AntiVirus** を起動していると、アプリケーションが正常にインストールされなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で **AntiVirus** を使用不可にしてください。

- ・「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus 2004」の順にクリックします。
「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」をクリックし、「Auto-Protect を有効にする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。
- ・「Norton AntiVirus」のアイコンが通知領域またはタスクトレイに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- AntiVirus でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 本パソコンをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。
- AntiVirus は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の AntiVirus をご購入ください。

■ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやアプリケーションのインストールを行う場合は、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア/ソフトウェア要件
使用したい周辺機器やアプリケーションが本パソコンのハードウェア構成やOSで使用できるか確認します。
 - 取り付け時やインストール時に注意すべき点
特に readme.txt や install.txt などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。
また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。
 - 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
 - 問題が解決されたドライバやアプリケーションの修正モジュール
- 富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fimworld.net/biz/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

ここでは、トラブル発生時にまず行うべき操作を説明します。

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？ 他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源ボタンはすべて入っていますか？
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやアプリケーションのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- アプリケーションをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、readme.txtなどの補足説明書、Web上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→ P.62）。発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

□ Windows XP の場合

- 1** 本パソコンの電源を入れます。
- 2** 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

- 3 「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

□ Windows 2000 の場合

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 「前回正常起動時の構成」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

Safe モードで起動する

Windows が起動しない場合、Safe モードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

■ Windows XP の場合

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 「Microsoft Windows XP」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
- 5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.55）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

■ Windows 2000 の場合

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 「Microsoft Windows 2000」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
- 5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Administrator のパスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.55) をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア (IRQ) の競合が起こっていないか確認してください。

確認方法は次のとおりです。

- 1 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 競合しているデバイスを確認します。
競合しているデバイス名にはエクスクラメーションマーク (!) が表示されています。または、×印が表示されている場合もあります。
- 4 競合しているデバイスがある場合、IRQ を変更してください。
変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。
また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルのエラーメッセージ集などで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

診断／修正プログラムを使用する

本パソコンでは、次のパソコン診断／修正プログラムを用意しています。

- UpdateAdvisor（本体装置）（Windows XP の場合）
- Windows 環境調査ツール（FM Advisor）
- FMV 診断
- QT-PC/U

■ Windows 環境調査ツール（FM Advisor）

FM Advisor で使用環境を調査すると、問題解決のヒントを得ることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
調査結果が表示されます。

■ FMV 診断

FMV 診断でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ▶ 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ▶ フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- ▶ CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ▶ ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

- 1 次の操作を行います。

- Windows XP の場合
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。
- Windows 2000 の場合
「スタート」ボタン→「FMV 診断」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

■ QT-PC/U

Windows が起動しないために FMV 診断が使用できない場合、「ドライバーズディスク」から起動できる QT-PC/U を使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

POINT

- ▶ Windows XP で「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

2 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。

メニューが表示されます。

【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows の起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本パソコンの再起動後に【F12】キーを数回押してください。

4 CD-ROM ドライブを選択して【Enter】キーを押します。

自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。

- ・ 診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 桁のエラーコードが表示されます。
お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。
- ・ 診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。

5 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。

Eject CD-ROM.

Press Ctrl + ALT + DEL for power off

6 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押します。

7 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。

[Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?

約 5 秒後に電源が切れます。

ただし、機種によっては次のように表示され、自動的に電源が切れない場合があります。

Please power off manually

この場合は、パソコン本体の電源を切ってください。

リカバリ／再インストール

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリ、または再インストールを行います。

リカバリ、または再インストールの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ リカバリ／再インストール後も状態が改善されない場合は

リカバリ、または再インストール後も状態が改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

□ ビープ音が鳴った

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1 回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここではビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記しています。
- ▶ 下表の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、ハードウェアに重大な障害が発生している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ ディスプレイカード上のROMでエラーが発生した場合やメモリテストエラーの場合は、画面が表示されません。

ビープ音の回数	原因と対処方法
1-2 (1回目のビープ音は「ピーッ」と長めに鳴ります)	PCI デバイス上の ROM でエラーが発生しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オプションの PCI カードを取り付けている場合は、正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販の PCI カードの場合は、製造元・販売元にご確認ください。 ・ PCI カードを取り付けていないにもかかわらず、ビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
1-1-1-1 1-3-3-1 1-3-3-2 1-3-4-1 1-3-4-3 1-4-1-1	メモリのテストエラーです。 <p>メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。</p> <p>メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元にご確認ください。</p>

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

□ 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。
- 電源スイッチ付きの AC タップをお使いの場合、AC タップの電源は入っていますか？

□ 画面に何も表示されない

- パソコン本体の電源は入っていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットもしくはコンセントに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
- デジタルディスプレイを使用する場合、パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。
マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
Windows が強制終了されます。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします (→ P.77)。

- ・ Windows 2000 の場合
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」をクリックします。
Windows が強制終了されます。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします (→ P.77)。

もしこの操作で強制終了できないときは、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待つてから電源を入れてください。

4 OS・アプリケーション関連のトラブル

□ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.63）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- Safe モードで起動できますか？
いったん Safe モードで起動し（→ P.64）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。
- 「ドライブズディスク」に入っている QT-PC/U という診断プログラムでパソコンの診断をしてください（→ P.67）。
QT-PC/U でエラーが発生しなかった場合は、リカバリ、または再インストールを行い、本パソコンをご購入時の状態に戻してください（→ 『取扱説明書』）。それでも解決しない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。

□ プログラムが動かなくなりました

- 次の手順でプログラムを終了させてください。

・ Windows XP の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
3. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.77）。

・ Windows 2000 の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「タスクマネージャ」をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。

4. 「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします (→ P.77)。

□ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」(→ P.24) をご覧ください。

□ 周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.55) をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。

□ 「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」で「ユーザーの簡易切り替えを使用する」が選択できない (Windows XP の場合)

- 「ユーザーの簡易切り替え」機能を使用するためには、128MB 以上のメモリ (ビデオメモリとして使用される分は除く) が必要です。必要に応じて、メモリを増設してください。

□ アプリケーションのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.74)
- パソコン本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.74)
- 「仮想メモリが足りない」(→ P.74)
- 「ネットワークに接続できない」(→ P.75)
- 「ネットワークリソースに接続できない」(→ P.76)
- 「ネットワークアダプタ名が同じ名前で表示される」(→ P.76)
- LAN の通信時に「1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い」(→ P.77)
- 「ハードディスクが使えない」(→ P.77)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定」(→ P.77)
- 「NTFS 区画のドライブに CHKDSK コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される (Windows 2000 の場合)」(→ P.77)
- (CD) 「ディスクからデータの読み出しができない」(→ P.78)
- (CD) 「ディスクが取り出せない」(→ P.78)
- 「フロッピーディスクが使えない」(→ P.78)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.79)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.79)
- 「表示が乱れる」(→ P.79)
- 「画面の両サイドが欠ける」(→ P.79)
- 「リカバリ、または再インストール後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない」(→ P.80)
- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.81)
- 「キーボードから入力した文字が表示されない」(→ P.81)
- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.81)
- 「マウスカーソルが動かない」(→ P.82)
- 「マウスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.82)
- 「USB デバイスが使えない」(→ P.82)
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」(→ P.82)
- 「プリンタを使用できない」(→ P.83)
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」(→ P.83)

BIOS

□ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

□ エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

メモリ

□ 仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍
最大サイズ：初期サイズの 2 倍

1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

2 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

● Windows 2000 の場合

「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。

●Windows 2000 の場合

「詳細」タブをクリックし、「パフォーマンスオプション」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。

- 4 Windows XP では、「詳細設定」タブをクリックします。
- 5 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
- 6 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 7 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 8 「OK」を3回クリックします。
- 9 本パソコンを再起動します。

内蔵 LAN

□ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・100Mbps で通信している場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
 - ・10Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
- 内蔵 LAN に関して次の項目を確認してください。
 - ・ハードウェアの競合が起こっていませんか？ (→ P.65)
 - ・LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.55) をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
- ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定と合っていますか？

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

□ ネットワークアダプタ名が同じ名前が表示される

複数 LAN カードを使用している場合、デバイスマネージャで表示されるネットワークアダプタ名が同じ名前が表示され、ネットワークアダプタの判別が困難なため、設定環境の構築ができないことがあります。

この場合、次の手順によりネットワークアダプタを判別し、設定を行います。なお、設定内容については、ドライバに添付されている readme.txt および install.txt を参照してください。

- Windows XP の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ネットワークとインターネット接続」アイコンをダブルクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」ウィンドウが表示されます。
 3. 「コントロールパネルを選んで実行します」から「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
 4. 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
 5. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 6. 「構成」をクリックします。
「LAN デバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。

- Windows 2000 の場合
 1. デスクトップの「マイネットワーク」アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。
「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。
 2. 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
 3. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「構成」をクリックします。
「LAN デバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。

□ 1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い

- LAN デバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは 1000BASE-T に対応していますか？
- 通信相手の機器は 1000BASE-T に対応にしていますか？

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていませんか？
『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. Windows XP では、「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動時に、このディスクの検査を実行しますか？」または「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリ、または再インストールしてください（→『取扱説明書』）。

□ NTFS 区画のドライブに CHKDSK コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される (Windows 2000 の場合)

- 次の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
 2. プロンプトから次のように入力し、【Enter】キーを押します。

`chkdsk /f [NTFS区画のドライブ]`

実行後は、オプションなしの CHKDSK コマンドを実行してもエラーメッセージは表示されません。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

CD

□ ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷ついたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

□ ディスクが取り出せない

- パソコン本体は動作状態になっていますか？
本パソコンの内蔵ドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
なお、なんらかの原因でトレイが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、内蔵ドライブユニット前面のディスク取り出しボタン横にある穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でつついてください。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか？
ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ディスクはフォーマットしてありますか？
ディスクをフォーマットしてください。
- ディスクは、1.44MB または 720KB (Windows 2000 の場合) の容量にフォーマットしてありますか？
その他のフォーマットのディスクを使う場合は、3 モードフロッピーディスクドライバをインストールしてください。(→ P.48)
- BIOS セットアップの項目を正しく設定していますか？(→『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「メニュー詳細」)
- ディスクが書き込み禁止になっていませんか？
ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか？
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか？
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください(→『ハードウェアガイド』の「付録」－「フロッピーディスクドライブのお手入れ」)。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 省電力モードが設定されていませんか？
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
パソコン本体の電源ランプまたはスタンバイランプがオレンジ色になっている場合は、ACPI モードの高度 (ACPI S3) に移行している可能性があります。パソコン本体の電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
- 電源ボタンを押す以外の方法で本パソコンをスタンバイモードからレジュームさせた場合、画面は表示されません (→「機能」－「スタンバイまたは休止状態からのレジューム」(→ P.29))。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。画面が表示されます。
- 「起動・終了時のトラブル」(→ P.69) もご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか？
明るさをブライトネスボリュームで調節してください。

□ 表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.55) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、Safe モードで起動してからインストールしてください (→ P.64)。
- アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください (→ P.60)。

□ 画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。

□ リカバリ、または再インストール後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバズディスク」をセットします。

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。
- 3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4. 「設定」タブの「詳細設定」をクリックします。
- 5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
- 6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7. 「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 8. 「リムーバブルメディア（フロッピー、CD-ROM など）を検索」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
- 9. 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 「.. インストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との互換性を検証する Windows ログテストに合格していません。」と表示されたら、「続行」をクリックしてください。
- 10. 「完了」をクリックします。
- 11. すべてのウィンドウを閉じます。
- ・ Windows 2000 の場合
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバズディスク」をセットします。
 3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
 5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
 6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウが表示されます。
 7. 「次へ」をクリックします。
 8. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
 9. 「CD-ROM ドライブ」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
 10. 「次へ」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」ウィンドウが表示されま
す。

POINT

▶ 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。

11. 「完了」をクリックします。
12. すべてのウィンドウを閉じます。

サウンド

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ パソコン本体と正しく接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・ 音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- OSの「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起こっていませんか？（→ P.65）
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？必要に応じて、「ソフトウェア」→「ドライバ」（→ P.55）をご覧になり、再インストールしてください。

キーボード

□ キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？

□ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
キーボード上のインジケータで、【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」アイコンをクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

- ・ Windows 2000 の場合
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「キーボード」アイコンをダブルクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 次のウィンドウで、正しい日本語 IME が設定されているか確認します。
「入力ロケール」タブの「インストールされている入力ロケール」

マウス

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？
マウス内部をクリーニングしてください。

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください (→ P.70)。

USB

□ USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

□ USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありますか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- 外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありますか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. Windows XP では、「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルート ハブ」をダブルクリックします。
「USB ルート ハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認してください。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？ プリンタのマニュアルをご覧ください。再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？(→P.75)

その他

□ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

どうしても解決できない場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、FMシリーズの技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧ください。弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

なお、記載の情報は、2005年1月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧ください。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問合せください。

● Norton AntiVirus 2004

・株式会社シマンテック

シマンテックテクニカルサポートセンター

本センターをご利用いただくためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートをご購入いただくか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

ユーザー登録ホームページ：<http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu>

電話・FAX：テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

電話受付時間：10:00～17:00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）

● Adobe Reader 6.0

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

索引

記号

3 モードフロッピーディスク
ドライバ..... 44, 48

A

ACPI 24
Adobe Reader 44, 48
AntiVirus 44, 50, 61

D

DirectX9.0b..... 44, 46
DirectX9.0c..... 44, 47
DMA の設定 20

E

Easy Backup 44, 51

F

FAT32 22
FM Advisor..... 44, 47, 66
FM-Menu 44, 50
FMV 診断 44, 49, 66
FM 拡大ツール..... 44, 51
FM キーガード..... 44, 49

I

Internet Explorer 6.0 SP1..... 44, 46
Internet Explorer 6.0 SP2..... 44, 46

L

LAN 18

M

Microsoft IME2000..... 44, 46
Microsoft IME スタンダード 2002.. 44, 46

N

NTFS..... 22

Q

QT-PC/U..... 67

S

Safe モード 64

V

Viewpoint Media Player 44, 47

W

Windows 2000 44, 45
Windows Update 10, 56
Windows XP Professional 44, 45
Windows 環境調査ツール
(FM Advisor) 44, 47, 66

あ行

色数..... 11

か行

解像度..... 11
仮想メモリ 74
休止状態..... 24
競合 65

さ行

シャットダウンユーティリティ 44, 53
省電力..... 24
スタンバイ 24
セキュリティ 34

た行

ドライバズディスク 55
「ドライバズディスク検索」
ツール..... 55

は行

ハードディスクデータ消去 44, 52
ファイルシステム 21
ページングファイル 74

ま行

マルチディスプレイ機能.....	14
ーの設定.....	15
ミラーディスク監視モニタ.....	44, 54

FMV-1260FA1S

ソフトウェアガイド
B6FH-4701-01-00

発行日 2005年1月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。